



株主・投資家の皆様へ

平成24年7月期（第51期）

2011年8月1日▶2012年7月31日

報告書



包装システムのトータルプランナー

ゼネラルパッカー株式会社

証券コード：6267

社は 創造と挑戦 — 感ずる、信ずる、行動する —

経営理念

わが社はつねに、独創的な技術を活かし、
顧客の要請に応える高品質な『商品』を提供する。



株主・投資家の皆様へ

新分野と海外市場の開拓による 成長戦略を推進してまいります。

株主の皆様におかれましては、日頃より当社事業への厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

ここに、当社第51期（平成23年8月1日から平成24年7月31日まで）における営業状況と次期の見通しをご報告させていただきます。ご一読の上、当社事業へのさらなるご理解とともに、今後の成長にご期待くださいますようお願い申し上げます。

代表取締役社長
梅森 輝信

当期における中期経営計画の進捗

当期は、平成26年7月期を最終年度とする第3次中期経営計画の初年度となりました。この3ヵ年計画では、持続的成長に向けて事業領域を拡大すべく、特に新分野と海外市場の開拓を重点テーマとしています。そして、①世界に信頼される包装機メーカー ②「なんとかしたい」にトップスピードで応えるトータルプランナー ③「創造と挑戦」のものづくり企業、の3点を中期経営ビジョンに定め、計画最終年度における「売上高4,400百万円」「営業利益245百万円」「経常利益250百万円」「当期純利益150百万円」の達成を目指しています。

計画に対する当期の進捗を振り返ると、収益面では、複数の高額案件で売上時期が遅延し、加えて想定以下の粗利実績も発生したため、期初の予想を大きく下回る結果となりました。しかしながら、積極的な広告宣伝・販売促進活動を展開したことにより、受注高は前期比448百万円増（15.5%増）の3,333百万円を確保し、新規顧客の開拓も着実に進展しました。

受注の拡大について製品別に見ると、給袋自動包装機が前期比17.2%増、ガス充填自動包装機が同28.5%増、包装関連機器等が同29.7%増と著しい伸びを示しており、とりわけ受注金額1億円以上の大型案件が貢献しています。また、高額保守案件の受注高についても、海外納入機における1千万円以上の改造案件が増加したことから、前期比20.8%の拡大となりました。

なお、足元の営業状況では、大型案件の需要が減少しながらも、中型案件については需要の増加が見られず。

こうした状況を踏まえ、中期経営計画の最終年度における業績目標については、今のところ前述の数値を変更せず、引き続き達成を目指してまいります。

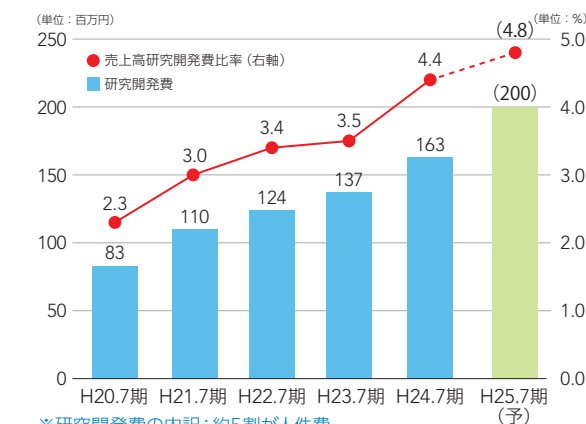
新機種投入に向けて研究開発を強化

中期経営計画に基づく成長戦略において、収益拡大を担うカギは、研究開発の推進による新機種の市場投入です。当社は計画期間中、每期3機種以上の新規開発・投入を予定しています。

当期の実績としては、既存分野向け1機種（製粉関連）、新たなマーケット向け2機種（酒造、海苔関連）を開発し、合計4台の売上となりました。現在は、シーズとニーズの両面から新規開発の取り組みを加速し、過去最高のペースで推進しています。これにより次期（平成25年7月期）は、上期中に既存分野向け4機種（食品全般、経節、製菓関連）、新たなマーケット向け1機種（食品関連）、海外マーケット向け1機種（ペットフード関連）、合計6機種を開発・完成させる予定です。

研究開発費

研究開発に裏打ちされた技術力が当社のコアコンピタンスであり、今後も積極投資を進めてまいります。



そして今後は、さらなる新規開発と並行し、これらの新機種による収益の確保に向けて、2号機以降の積極的な拡販にも注力していきます。

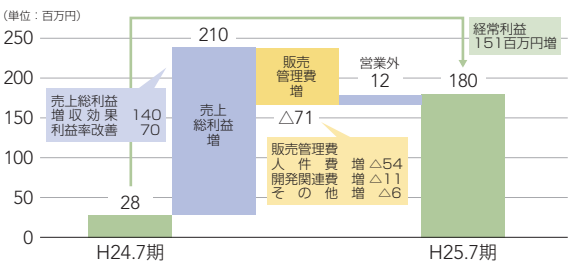
一方、こうした新規開発の強化に伴い、研究開発費の投入も増加しています。当社の研究開発費は、そのうち約5割を人件費が占めています。中期経営計画の期間中は、開発部人員の拡充と開発テーマの増加に対応し、研究開発費を積極投入していく方針です。当期の研究開発費は、前期比19%増の163百万円となり、売上高研究開発費率は、前期の3.5%から4.4%に上昇しました。

次期の研究開発費については、当期投入額の22.7%増となる200百万円を予定し、売上高研究開発費率は4.8%となる見込みです。

次期の見通しと注力テーマについて

受注の好調により、期初の受注残高が当期に比べて693百万円増加しており、また、中型案件を中心に引き続き需要の堅調が見込まれることから、次期の売上高は4,200百万円（当期比13.9%増）を予想しています。費用面では、人件費および研究開発費の増加により販売管

高水準の受注残高により、増収・増益の見通し



理費が拡大するものの、増収効果と利益率の改善によりカバーし、営業利益178百万円（当期比353.5%増）、経常利益180百万円（同538.5%増）、当期純利益105百万円（同97百万円増）と、大幅な利益回復を果たす計画です。

次期の注力テーマとしては、新機種のさらなる納入・拡販による収益確保に努めると同時に、海外向けの売上拡大を目指し、取り組みを強化していきます。また、高価格機種における粗利益の向上を図ります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

TOPICS

包装・食品機械関連総合イベント「2012 中部パック」に出展

当社は、2012年4月11日から14日の4日間にわたり開催された包装・食品機械関連総合イベント「2012 中部パック」に出展しました。会場の「ポートメッセなごや」には4日間で63,000名を超える人々が来場し、盛況となりました。当社ブースでは、新開発の「コンパクトパッカー GP-9S(ナイス)型」と粉末充填機の連動実演を実施。また、コンタミ（不純物混入）防止のために清掃性を向上した「GP-WP10型」をはじめ、幅広い袋形態に対応した給袋自動包装機を展示し、多くの来場者の注目を集めました。



2012中部パックでの展示の様子

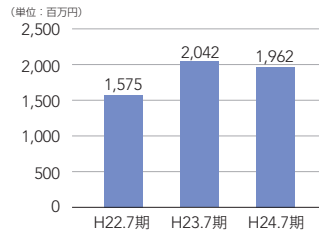
品目区分別の状況

給袋自動包装機（ガス充填自動包装機含む）

売上高 **1,962**百万円 前期比3.9%減



給袋自動包装機は、販売台数は増加したものの、平均価格が減少したことから、売上高は1,962百万円（前期比3.9%減）となりました。

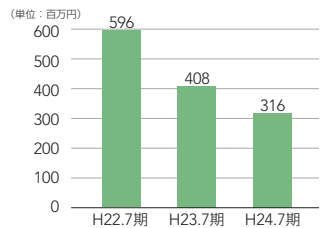


製袋自動包装機

売上高 **316**百万円 前期比22.5%減



製袋自動包装機は、販売台数が減少したことから、売上高は316百万円（前期比22.5%減）となりました。

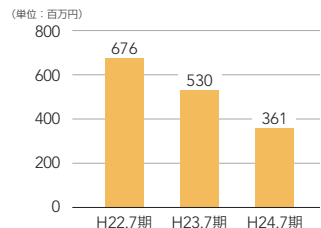


包装関連機器等

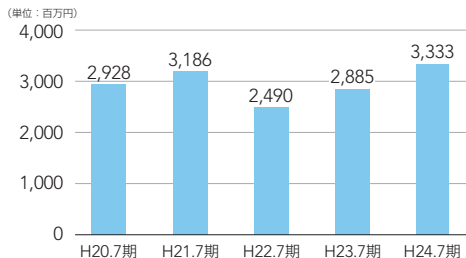
売上高 **361**百万円 前期比31.9%減



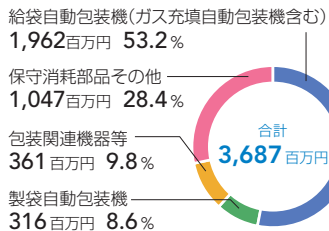
包装関連機器等は、包装システムの実績が減少したことから、売上高は361百万円（前期比31.9%減）となりました。



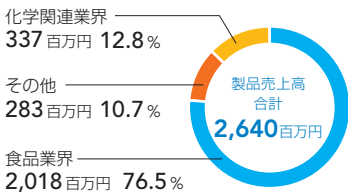
機械受注高



品目別売上高



最終ユーザー業界別売上高

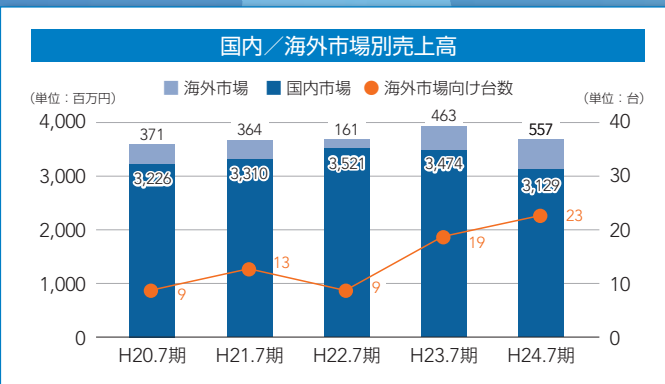
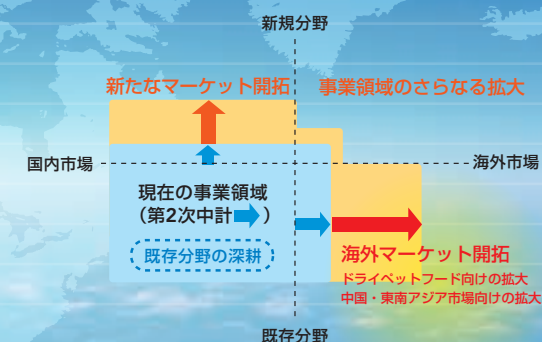
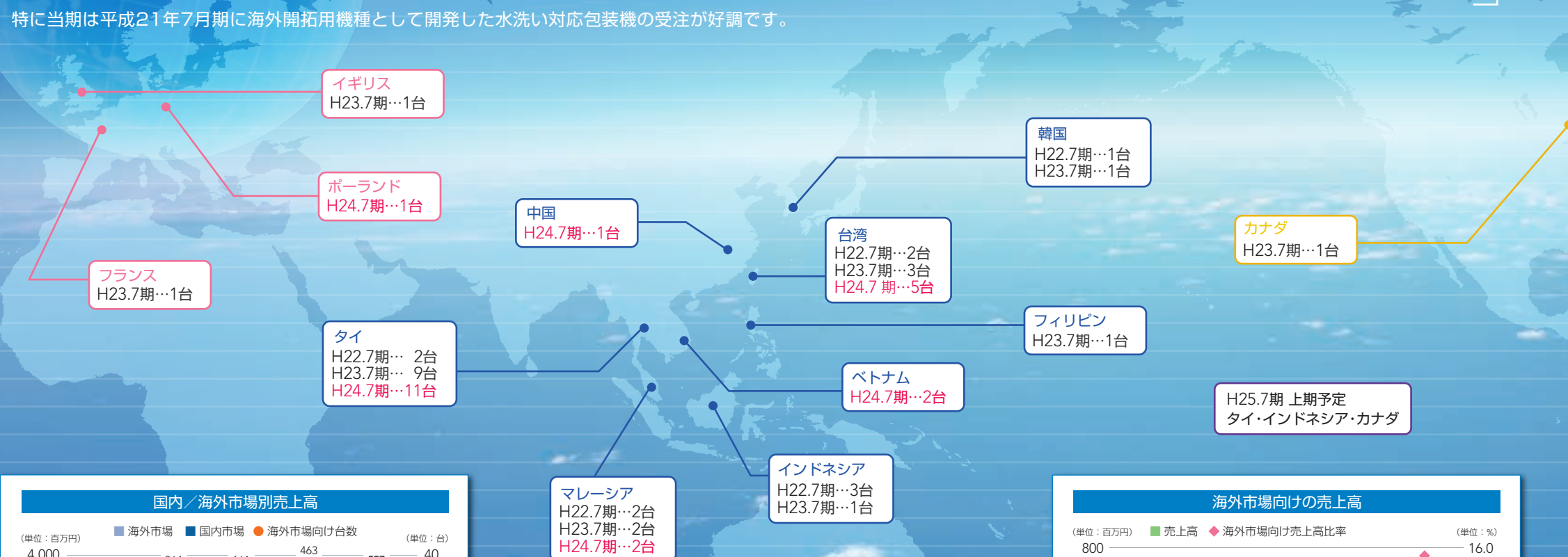


世界に広がるゼネラルパッカーの包装機械

当社は第3次中期経営計画における中期経営ビジョンで「世界に信頼される包装機メーカー」を掲げ、平成23年10月に海外営業部を新設、海外売上高比率を安定的に15%以上とすべく取り組んでいます。特に当期は平成21年7月期に海外開拓用機種として開発した水洗い対応包装機の受注が好調です。

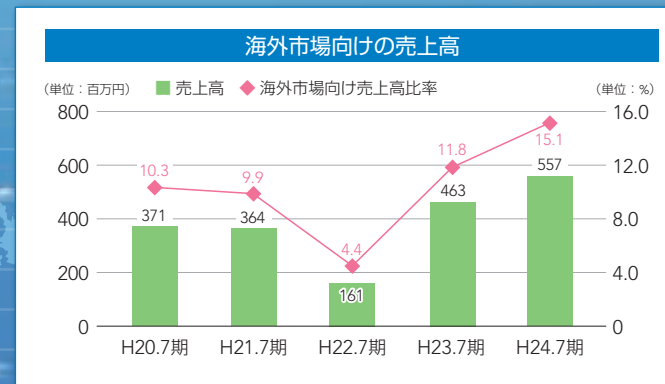
第3次中期経営計画における基本戦略では、海外マーケット開拓が最重要テーマのひとつとなっています。

「持続的成長に向けて
事業領域のさらなる拡大を目指す」



今後の主な取り組み

- ▶ 中国・東南アジア市場ニーズの把握
- ▶ 多角的な販売ルートの開拓

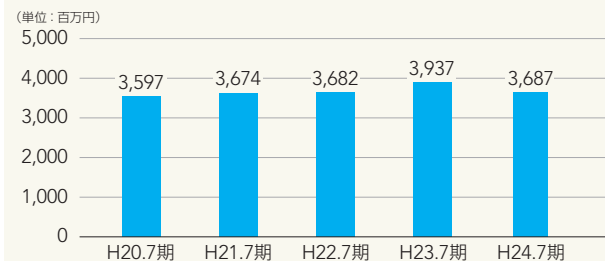


ペットフード用包装機

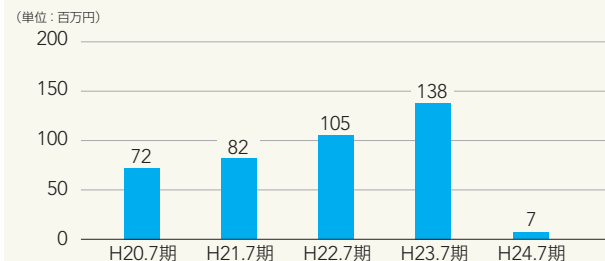
自動包装機は、欧州・米州を中心にドライペットフードメーカー向けの納入実績が拡大。仕上りの美しさとガス充填技術が高く評価されています。また、アジア地域では冷凍食品メーカー向けの納入が増加中です。



売上高



当期純利益



経営成績に関する定性的情報

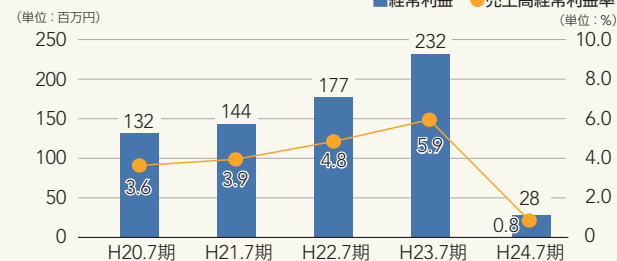
当期におけるわが国経済は、東日本大震災の影響で停滞していた経済活動が回復しつつあった一方で、欧州各国の財政問題を背景とした海外経済の減速や円高の長期化等により、景気は依然として不透明な状況で推移しました。

包装機械業界におきましては、顧客企業の設備投資需要に改善が見られるとともに、輸出も増加するなど、回復傾向で推移しました。

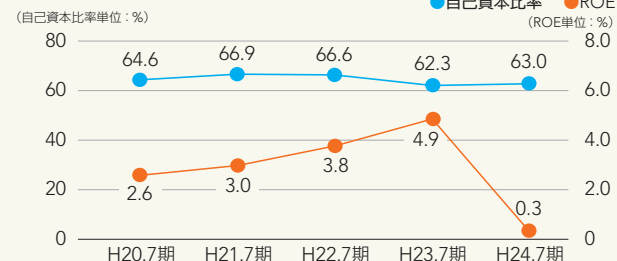
このような状況のなか、当社は積極的な広告宣伝・販売促進活動と新機種開発活動を推進し、新規顧客と新たなマーケットの開拓、新機種の拡販、海外販売の強化に取り組んでまいりました。

売上高につきましては、下半期の国内需要の落ち込み等に伴い、高価格機種の販売台数が減少したことから、前期に対し294百万円の減収となりました。

経常利益／売上高経常利益率



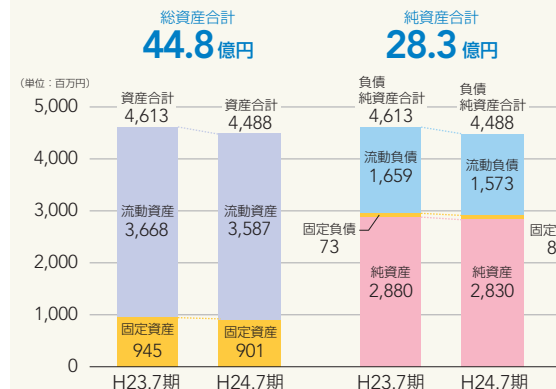
自己資本比率／ROE



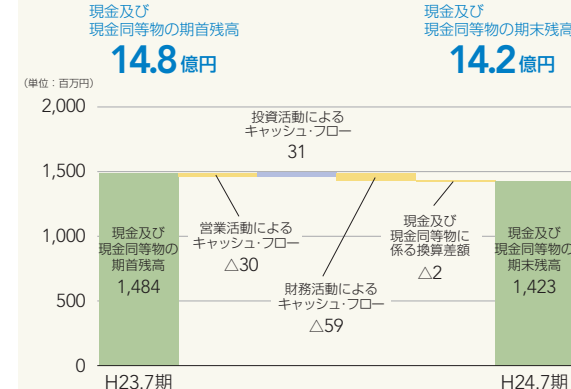
一方、受注高につきましては、次期売上予定の案件の受注が好調に推移し、大型案件の受注実績が増加したことから、機械受注高は前期に対して448百万円増加しました。

この結果、当期の売上高は、国内向けの売上が減少したことから、3,687百万円（前期比6.3%減）となりました。また、損益面につきましては、売上高の減少と売上総利益率の低下に伴い、売上総利益は前期より106百万円減少しました。一方で、販売費及び一般管理費は大型展示会費用の発生と研究開発費の増加等に伴い前期より大幅に増加したことから、営業利益は39百万円（前期比82.5%減）、経常利益は28百万円（前期比87.9%減）、当期純利益は7百万円（前期比94.4%減）となりました。

財務状況



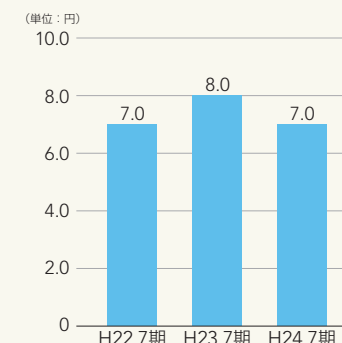
キャッシュ・フローの推移



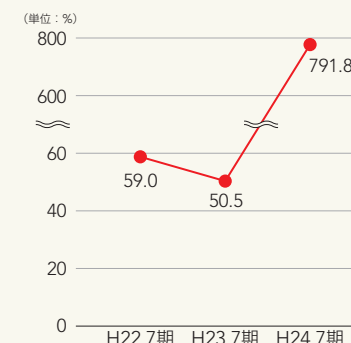
株主還元方針

株主の皆様への積極的な利益還元を図ることを基本方針として、配当性向 50%または純資産配当率 (DOE)2% を目安に、安定配当を堅持しつつ、業績動向を見ながら配当金の増加を目指しています。

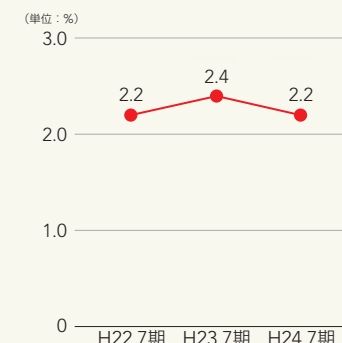
1株当たり配当金



配当性向



純資産配当率 (DOE)



第4回 種用包装システム

種の容量差に対応し、

トータルシステムで合理化。



規格統一されている種用パッケージ

フラワーショップや園芸店、ホームセンターなどでも見かける種の販売。草花、野菜、果物、ハーブなどの栽培を家庭で手軽に楽しむことができ、生活の中で植物の小さな変化を感じながら、日々成長させていく喜びを味わえます。食用のものは、収穫した実りを食卓で賞味する楽しみもあります。

植物の種は、種類によって大きさや形がさまざまですが、その販売用パッケージは、店頭で一定サイズの棚や什器に置かれるため、袋の規格が統一されています。

種苗メーカーが求める梱包の合理化

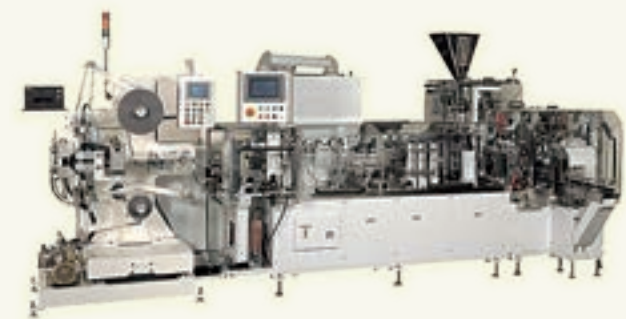
従来、種苗メーカーの製造工場では、種の販売用パッケージを5袋あるいは10袋ごとに輪ゴムでまとめ（バンディング）、段ボールに詰めて出荷していました。しかし、この工程は手作業で行われており、袋の数を数える人、輪ゴムでまとめる人、段ボールに詰める人など、数人の作業者を必要としていました。当社が種苗メーカーから受けた要請は、その合理化を図る包装システムの開発です。

また、種によって大きく異なる容量を、規格統一された袋に封入する機能も求められました。

トータルシステムによる省人化を実現

当社は、輪ゴムでまとめていた工程を、錠剤などの薬品梱包に使われる帯状フィルムによる自動バンディングに転換。袋詰め工程では、種の容量における0.1mlから100mlまで1,000倍の差に対応する機能を備えました。そして一連の流れを整理し、袋詰め包装機から、袋をカウントする装置、バンディングマシン、段ボールに詰める装置までを一体化。トータルシステムの構築に成功しました。

その結果、これまでの作業内容をオペレーター1名でこなせるようになり、大幅な省人化を実現しました。



■ 会社概要（平成24年7月31日現在）

商 号	ゼネラルパッカー株式会社
英 文 社 名	GENERAL PACKER CO., LTD.
設 立	昭和41年2月(創業 昭和36年12月)
資 本 金	2億5,157万7千円
事 業 内 容	各種自動包装機・荷造用機械及び周辺装置の製造・販売・修理,それに附帯する一切の業務
従 業 員 数	123名
本社・工場	〒481-8601 愛知県北名古屋市中区宇福寺 神明65番地 Tel.(0568) 23-3111 (代) Fax.(0568) 22-3222
東京営業部	〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町 三丁目5番地8 神田木原ビル4F Tel.(03) 3256-3891 (代) Fax.(03) 3256-3893



■ 取締役及び監査役（平成24年10月25日現在）

代表取締役社長	梅 森 輝 信	
常務取締役	小 関 幸太郎	管理部 兼 資材部担当
取 締 役	鈴 木 完 繁	営業本部長
取 締 役	池 田 勇 次	生産部担当
取 締 役	牧 野 研 二	開発部長 兼 技術部担当
取 締 役	濱 田 兼 幸	
常勤監査役	余 川 善 明	
監 査 役	村 橋 泰 志	
監 査 役	浅 井 一 郎	

■ 株式の状況（平成24年7月31日現在）

発行可能株式総数	28,000,000 株
発行済株式総数	8,994,000 株
株主数	921 名

■ 大株主（平成24年7月31日現在）

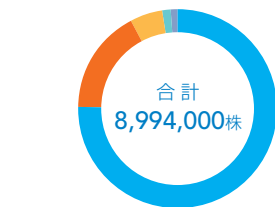
株主名	持株数 (株)	議決権比率 (%)
株式会社ワイ・イー・データ	1,350,000	15.23
ゼネラルパッカー従業員持株会	1,340,000	15.12
原 淳	601,000	6.78
株式会社りそな銀行	392,000	4.42
ゼネラルパッカー取引先持株会	375,000	4.23
高野 季久美	364,000	4.10
田中 かな	364,000	4.10
梅森 輝信	204,000	2.30
島末 孝法	196,000	2.21
滑 達彦	140,000	1.57

株主数構成比



個人・その他	892名	96.85 %
その他法人	19名	2.06 %
証券会社	7名	0.76 %
金融機関	2名	0.22 %
自己名義	1名	0.11 %

株式数構成比



個人・その他	6,778,044 株	75.36 %
その他法人	1,517,400 株	16.87 %
金融機関	498,000 株	5.54 %
自己名義	124,733 株	1.39 %
証券会社	75,823 株	0.84 %

株主メモ

事業年度	8月1日から翌年7月31日まで
定時株主総会	10月
基準日	定時株主総会 7月31日 期末配当金 7月31日 中間配当金 1月31日 その他あらかじめ公告する一定の日
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社
同事務取扱場所	〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目7番20号 日本証券代行株式会社 名古屋支店 Tel. (052) 261-1781 (代)
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
公告掲載URL	http://www.general-packer.co.jp/

各種手続きのお申出先

- ・未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出ください。
- ・住所変更、単元未満株式の買取、配当金受取方法の指定等
証券保管振替機構（ほふり）をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出ください。
証券保管振替機構（ほふり）をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へお申出ください。

ホームページをご活用ください。

当社ホームページでは、新着情報、会社情報、商品情報、IR情報等、様々な情報をご提供しています。

今後も皆様にお役立ていただけるよう掲載情報の一層の充実を図ってまいります。



<http://www.general-packer.co.jp/>

企業ホームページ
最優秀サイト

日興アイ・アール
新興市場ランキング

包装システムのトータルプランナー ゼネラルパッカー株式会社

- 本社・工場
〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺神明65番地
Tel. (0568) 23-3111 (代) Fax. (0568) 22-3222
- 東京営業部
〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8 神田木原ビル4F
Tel. (03) 3256-3891 (代) Fax. (03) 3256-3893

